

実施状況

前時までの進路選択、少子高齢社会についての学習をもとに、男女で社会を築くとはどんなことなのか考察するきっかけを提示した。具体的には、アンケートやジェンダーについての自由記述など、生徒の活動の中からポイントを見出し、それをもとに考察させるよう工夫した。

また、アンケートの集計や自由記述からの抽出など、各場面において生徒が主体的に活動する場を多く設けることにより、自発的な学習への雰囲気をつくるとともに、指導者による方向付けを避ける展開とした。

児童・生徒の感想

男女共同参画社会に向けての動きの中で育ってきた生徒達らしく、これまでのジェンダー意識を比較的冷静に見つめるとともに、変化しつつある側面をも事実として捉える感想が多かった。

生徒は、答えのないテーマであることを認識しているらしく、例えば、イベントにおける花束贈呈やレディースデーはあっても男性のそういうものはほとんどなく、その一方で職業における性別の壁が少し低くなっている実態などを記述していた。

参観者の感想

- 男女共同参画社会を築くための法律や制度を資料によって確認させるとともに、ジェンダーが歴史的に醸成されてきたことを昔話やポーランド民謡によって考察させるなど、大変すばらしい授業で有意義な時間を過ごすことができました。
- 生徒達もグループで話し合ったことを発言したりして積極的に授業に参加している姿に好感を持ちました。

指導者の感想

答えが定まっているテーマではないので、一方的な結論付けを避けた。その意味では、知識として押さえるものが少ないだけに難しい教材であった。

また、音楽を聴かせたり、生徒の活動や考察をもとに展開したりする授業は、その重要性を認識しつつもなかなかできない授業形態なので、私にとっても学ぶよい機会となった。